

平成25年第2回定例会

市長報告

日野市、国分寺市との可燃ごみの共同処理について

市長報告

日野市、国分寺市との可燃ごみの共同処理について

本日は、平成25年第2回定例会初日のお忙しいところ、市長報告として発言をお許しいただきありがとうございます。

はじめに、小金井市政の最重要課題である可燃ごみ処理施設建設については、この間の日野市のご努力に感謝申し上げるとともに、日野市クリーンセンター周辺地域の皆様にご不安を与え、申し訳なく思っております。また、国分寺市との2市での共同処理を行う件に関しまして、ご迷惑をお掛けしていることを、改めてお詫び申し上げます。

さらに、平成25年度の小金井市の可燃ごみ処理にご支援をいただいている稲城市、狛江市、府中市、国立市を構成市とする多摩川衛生組合の施設周辺にお住まいの皆様並びに関係者の皆様をはじめ、平成19年度以降、広域支援をお願いしました各団体の施設周辺にお住まいの皆様並びに関係者の皆様に心から御礼申し上げますとともに、多摩地域における廃棄物の最終処分場の運営に関し、ご理解、ご協力をいただいている日の出町の皆様に改めて感謝申し上げます。

そして、小金井市民の皆様には、日頃からごみ減量、分別にご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

本日は、昨年11月30日に市長報告をさせていただいた以降の、日野市、国分寺市との可燃ごみの共同処理の状況についてご報告をさせていただきます。

本年2月28日の日野市議会定例会では、当時の馬場弘融市長から「これからも時間をかけて説明することで、ごみ処理の広域化についてご理解をいただき、当初の方針どおり進めさせていただこうと考えています。」とのご発言がございました。

その後、3月13日には、日野市が平成23年12月に提出していた日野市循環型社会形成推進地域計画を、日野市、国分寺市、小金井市の3市で共同処理する内容に変更し、周辺住民の理解を得て、可燃ごみの広域処理に向けた新施設の建設を共同で進めるとした覚書を添付し、東京都を經由して環境省に提出したところです。

さらに、4月14日に行われた日野市長選挙では、地元の理解をいただきながら、日野市、国分寺市、小金井市の3市で可燃ごみの共同処理を推進すると表明した大坪冬彦氏が当選し、大坪市長自ら周辺地域へ説明を行い、「国分寺市、小金井市との可燃ごみの共同処理計画を継続する。」と発言され、馬場前市長の方針を引き継ぐ考えを示されました。

また、5月28日に行われた日野市の定例記者会見では、大坪市長が、「地元説明会に5月18日、19日、25日と3回出席し、厳しい声も聴き、地元の理解がすべて得られているとは言えないが、白紙撤回ということではなく、前に進めるべきという感触を持った。近日中には、国分寺と小金井の両市長にも地元の説明会に出席してもらってもいいかなと認識している。」と発言されました。

私としても、3市での共同処理を実現するためには、周辺地域の皆様をはじめ、日野市民の皆様にご理解をいただくことが大切であり、以前から是非、周辺地域の皆様にご説明をさせていただく機会を与えていただきたいと考えておりましたところ、大坪市長から、6月8日、9日に地元へ説明する場を設けたので、出席するように、との要請があり、是非、出席させていただきたい旨の回答をさせていただきました。

今後とも小金井市といたしまして、与えられた役割、責任を誠実に果たすとともに、日野市、国分寺市と共に力を合わせて、共同処理に向け全力を注いでまいります。

市民の皆様をはじめ市議会議員各位におかれましても、引き続きのご理解、ご協力を切にお願い申し上げます、市長報告といたします。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。